

2019年4月1日より2020年3月31日まで、カリフォルニア大学バークレー校に訪問研究員として滞在し、「情報ニーズの分析と評価に関する研究」を課題とする研究を行った。以下、その在外研究の概要とその成果を報告する。

## 1. はじめに

哲学者の中井正一が『委員会の論理』のなかで考察した「確信」と「主張」を取り上げ、それらが著者と読者・利用者の「情報ニーズの分析と評価」の研究枠組みとしてきわめて重要な論点が提供されていることを明らかにした。

## 2. 主張としての「図書」への要求の特殊性

中井は、「印刷される論理」を構成する「生産の論理」のなかで、商品性という概念を取り上げ、物の存在をめぐる重要な概念を提示している。その概念は、著者の主張を著した図書への利用者の要求の特殊性を示唆する重要な枠組みとなるものである。

中井は、市場経済の原理が機能する現代社会において生産される商品の特性について、次のように、セメントを例に独創的な概念をもちいて議論を展開している。

私たちは売買の現象は単なる経済現象であって、論理およびその一般性とは何の関係もないかのように考えやすいが、事態を正確に観察するならば、決してそうではないのである。例えば、ここにセメントを売っていると。そこで売っているということは仔細に観察するならば、これはセメントであるか、と人間の需要的要求に向かって問うているわけである。それがこの利潤機構の限界内で、少しでもセメントが付託されている機能に適合しないものがある場合、人々は買わないこと

によって、それをプラクシスとして実存在 Existenz の領域より排除してしまう。現段階においては、売れないものとは、存在しないもの、非存在を意味しているのである。「である」の可能存在は、そのまま「がある」の現実存在に連続するのである。<sup>1)</sup>[傍点と強調文字は原文のまま]

図書館資料の利用は、経済現象とはみなされないが、ここで指摘されている「である」の可能存在と「がある」の現実存在との関係性は、以下で述べるとおり、利用者の要求する図書館資料のもつ特殊性にもあてはまる重要な視点を提供している。

基本的に、購買の対象となる一般商品は、それを購買する人々にとって同じ機能が期待されている。すなわち、人間がセメントに対して有している需要的要求とは、何らかの物体を固めるという機能であろう。その機能をもたない限り、それは購買されない。セメントを購買するとき、セメントには、そうした需要的要求を充足するかどうか判断され、評価される。この判断と評価の結果、需要的要求をみたすと判断されたならば、まずセメント「である」と認定され、次にそこにセメント「がある」と認識され、購買されるという過程をたどる。需要的要求をみたさず、セメント「である」と認定されなければ、そこにセメント「がある」という判断は下されず、購買されないどころか、その存在自体が無きものとされてしまうことになる。

さて、利用者による図書館資料の選択は、利用者自らの要求をみたすかどうかによって判断される。この判断において依拠される要求は、セメントのような商品とは違い、個々の利用者によって異なる。ある利用者にとっては重要であり有用な内容をもつ図書と判断されたとしても、別の利用者にとってはまったく無価値な図書と判断される可能性があるということである。ここに図書館資料のもつ要求と価値判断の関係性における困難が生じるのである。つまり、セメントのように、基本的に求められる機能・価値が同一である一般の商品とは違い、図書は利用者ごとに異なる機能が求められ、価値判断がくだされるのである。

以上の考察をふまえ、次に、一般の商品への要求と図書や記事等の図書館資料への要求との違いについて一般化を試みる。一般の商品A、たとえば「セメント」というとき、個々のセメントの違いは問題にならず、セメントに求められる固めるという機能を有する白い粉であれば、すべてのセメントはセメントとして一括される。それに対して、図書は、ある著者 x の書いた y というタイトルをもち、z という出版者から出版された図書Aとして認識される。もちろん、x、y、z が共通の図書が 5000 部発行された場合、5000 部のそれぞれを区別することなく、図書Aとして一括して扱うことになる。しかし、x、y、z が異なる別の図書は、もはや図書Aとして一括して扱うことはできず、図書B、図書Cとして、異なる著者による意味の質的構成を有する独立した図書とし

て位置付けられる。

すなわち、タイトルを異にする個々の図書が、セメントの機能を有するすべてのセメントという商品全体に対応するのである。換言すれば、セメントについては、セメントという概念をみたす個々の物理的個体としてのセメントを要素にもつ「セメント」という集合が要求の対象となる。それに対して、図書の場合、図書という集合の要素となるタイトルを異にする個々の図書が要求の対象となるのである。こうしたセメントと図書に対する要求の違いは図4のように図式化できる。

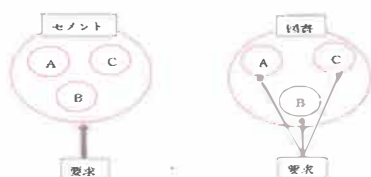


図1 要求の対象としての一般商品と図書の違い

セメントとして実際に購買されるのは個々のセメントA, B, Cであるが、その要求はセメント全体に向かっており、購買者にとってA, B, Cの違いは問題にならない。それに対して、図書への要求は、タイトルを異にする個別の図書A, B, Cに向かうのであり、要求をもつ個々の利用者ごとにその向かう先の図書も異なる。

図1に示したように、セメントへの要求の構造は基本的に一般の商品にもひとしくあてはまる。それに対して、図書については、同一タイトルの図書ごとに「である」の可能存在と「がある」の現実存在をあてはめて考える必要がある。図書Aが、ある利用者Xの要求をみたさない、すなわち、その利用者にとってその図書は自らの要求をみたす図書「である」の可能存在ではないことから、直ちに図書Aは必要ないもの、その図書「がある」の現実存在が否定され、存在しないものとはならない。というのは、その図書が別の利用者Yの要求をみたす可能性が常に開かれているからである。

その一方で、図書の主張すなわち著者の判断的是認に対する利用者の同意的是認の量としての意味の量的構成の指標として、貸出件数の値が、個々の図書の存在、非存在を決定する指標となる可能性は否定できない。なぜなら、主張とは、主張者の判断的是認を他者が是認することを目的に行われるとするならば、その判断的是認の是認の量はその主張の非存在、存在を決定するものといえるからである。それゆえ、判断的是認の是認の量が少ないということは、主張者である著者にとって、主張する目的を十分に達成していないことを意味することになる。

中井は、商品の物価とは、“一定の存在をして、実存在たらしめていることを、人間活動のプラクシスが許容している現段階の境界線”<sup>10)</sup>と述べている。もちろん、商用出版物としての図書にも価格が設定されており、その価格は図書の有用性、知識としての価値から形成される市場価値を示すものである。それに対して貸出件数は、図書館という場における、市場経済でいうところの物価に相当する概念と考えられ、

その値がその図書館におけるその図書の存在意義における境界線としてもちいられる可能性は否定できない。

ただし、先述したとおり、セメントのような一般の商品への要求と特定の図書への要求は図4に示したように構造的に異なる。セメントに代替する商品が開発され、セメントの有用性が低下するとすれば、セメントの有用性の低下は購買者全体がひとしく認識するものである。それに対して図書の場合、ある利用者にとってその有用性の低下は、他の利用者にとっての有用性の低下をただちに意味しない。ある図書が利用者にとってもはや有用でなくなっても、別の利用者にとって依然として有用性を保持する可能性は十分にある。こうした利用者の個別性をどこまで配慮し、特定の図書の有用性と図書館における存在意義を評価するかが、図書館サービスの評価の最大の課題の一つといえる。利用者の個別的要求を考慮するとき、貸出件数という量的指標のみで特定の図書を評価することの限界と問題点がそこに浮き彫りになるのである。

### 3. おわりに

最後に、中井の次の指摘を紹介する。これは価値の量的評価に偏重した市場経済下の現代社会への警告として指摘されたものだが、図書館サービスの評価を貸出件数に過度に依拠することへの警告として、重く受け止めなければならない。

その存在が生産物である場合はもちろんであるが、それは自然存在として、山でも川でも、生物、動物のすべてにおいて、ついには人間ですら、すべて売物であり、それが売買価値を失う時、それは常に非存在の領域に転落する強力な歪みを受けているのである。<sup>iii)</sup>

図書館において、貸出件数の低い図書を存在しない物とみなし一律に除籍することは、少数とはいえ、その図書を求める利用者を非存在の領域に転落させることを意味するのである。

以上の報告は、在外研究の成果として執筆し、掲載された以下の紀要論文の一部をもとに作成したものである。

齋藤泰則．“確信と主張および否定判断と問いの関係性—図書館およびレファレンス質問生成機構の基底に関する考察—”．*明治大学図書館情報学研究会紀要*, no. 2020.3, p.

---

i) 中井正一．「委員会の論理—一つの草稿として」久野収編『中井正一全集 1』，美術

---

出版, 1981, p.96-97.

ii) 中井 ii), p.96.

iii) 中井 ii), p.96.